

項目	診断の観点	診断の規準	助開 ○×	備考	フォロー ○×		
学 校 經 営	教育目標・経営方針	県や市町村教育委員会の指導方針を踏まえた教育目標の設定	学習指導要領、「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標等を設定している。	○			
		学校の特色や前年度の課題を踏まえた経営方針・重点目標の設定	目指す学校像・児童像・教師像を具体的な姿で示している。	○			
		学校運営や教育活動を構造化・体系化してグランドデザイン等に示している。	学校の特色や前年度の課題を踏まえて重点目標等を設定している。	○			
		学校経営方針や重点目標等を教職員が共有している。	学校運営や教育活動を構造化・体系化してグランドデザイン等に示している。	○			
	校務組織分掌	重点目標等の達成に向けた取組	重点目標等を、学校だよりやホームページなどで児童・保護者・地域住民等に発信している。	○			
		学年や分掌間等の連携・協力体制	学校の課題や今日的な教育課題に対応するための組織をつくり、具体的に取り組んでいる。				
	学校評価	学校評価の組織的な推進	学校評価委員会等を設置し開催している。	○			
			学校全体で組織的に学校評価を推進している。	○			
		学校評価の計画的な推進	学校評価の推進計画を作成し、計画的に推進している。	○			
		学校評価の目標設定	本年度の重点目標等の達成に向けた具体的な目標や方策を評価項目として設定している。	○			
		学校評価の活用と成果	学校評価をツールとして活用し、学校改善が進んでいる。	○			
		アンケートの活用	児童や保護者等を対象としたアンケート（授業評価を含む）を自己評価に適切に活用している。	○			
		学校関係者評価の実施	保護者等を含めた学校関係者評価委員会等を設置し開催している。	保護者や地域住民等に対して、「地域と共にある学校づくり」等の取組を情報発信している。	○		
			自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施している。	保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。	○		
学校評価の公表	保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。	保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。	○				
	保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。	保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。	○				
地域連携	地域連携	地域連携を推進するための組織を設けている。					
		学校、保護者、地域住民が当事者意識をもって熟議する場を設けている。					
		学校、保護者、地域住民が参画・協働して児童を育てる取組がある。	○				
		保護者や地域住民等に対して、「地域と共にある学校づくり」等の取組を情報発信している。					
教 育 活 動	学習指導	各教科等の年間指導計画の作成と活用	学習指導要領に基づき、教育目標等を踏まえながら、各教科等の年間指導計画を作成し、活用している。	○			
		基礎的・基本的な内容の定着に向けた取組	基礎的・基本的な知識や技能の習得とその活用を図る取組を計画的に行っている。				
		自ら学び、自ら考える力を培う指導の工夫	指導方法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。				
	児童の学習状況の把握と適切な評価	各教科等の評価規準を作成している。	○				
		授業における児童の学習状況を把握し、適切に評価している。					
	生徒指導	重点課題の明確化及び教職員による指導体制	児童の実態を踏まえて重点課題を明確にし、継続的な取組を行っている。	○			
			配慮を要する児童に対して、教職員が連携して指導する体制を整えている。	○			
		教育相談の体制	指導や支援のできる教育相談体制を整えている。	○			
	人権教育	県の「人権教育の推進についての基本方針」等を踏まえた人権教育の推進	児童や地域の実態を踏まえ、県の「人権教育推進プラン」に基づいて人権教育推進計画を立てている。				
			児童・保護者に人権意識を高める多様な取組を計画・実施している。				
特別支援教育	特別支援教育の推進体制	特別支援教育を推進するための組織が整っている。					
		特別支援教育推進計画を立てている。					
研究・研修	指導力向上や授業改善を図るための研究・研修体制	研究主題及び研究内容・方法を明確に示している。					
		全学年で、研究授業・研究協議等を計画・実施している。	○				
当 面 す る 県 の 教 育 課 題	規範意識の高揚	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。					
		「学校のきまりを守る」等について、具体的な取組を計画・実施している。					
		いじめに関して実態を把握するとともに、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。	○				
	体力の向上	規範意識の高揚に向けて、家庭と連携して取組を進めている。					
		実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。					
		体育科の授業で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。	○				
学習意欲の向上	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。						
	日々の学習指導の中で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。						
	家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組を計画・実施している。						

<p style="text-align: center;">学校評価について(担当:吉川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価推進計画を立て、教員の学校評価への意識を高めている。 ・昨年度の課題を今年度の教育で改善するためには、どのようにしたら良いかを分析し、実践できるよう努めている。 ・学校評価を形式的なものではなく、よりよい教育を推進するための指標となるため継続的に改善する必要がある。 	<p style="text-align: center;">学習指導・研究研修について(担当:城野・石岡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より国語科「書くこと」の領域で研修を進める。 ・児童アンケートで足りない力を探り、どんな力が必要化の研究を進める。 ・毎学期ごとに重点単元を決める。公開授業は3学年。それ以外の学年も授業研修は行う。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の領域の内容は広範囲なので、今後絞り込みが必要。 ・「書くこと」は各教科に関連するので、系統性を持った取組を。 ・具体的な調査項目を入れ、どんな「書く」力をつけたいのか明確にすればいい。講師先生はそこにたどり着けるようなアドバイスをもらおうといい。 ・若手教員も意見が出せる研究討議を。
<p style="text-align: center;">特別支援教育について(担当:城野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化による学級経営・指導方法の工夫を。 ・特別支援学級在籍児童の「個別の指導計画」を作成するが、学期ごとの評価を3学期制にするか2学期制にするか、検討中。 ・通常学級に在籍する支援が必要な児童の実態を把握し、個に応じた指導・支援を行う。 ・特別支援教育コーディネーターの巡回相談を受け、夏休み休業中に講師に招き、研修を実施。 ・支援に必要な児童について、職員間で共通理解を図る。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画」は3学期制で評価した方が、長期休業を利用して丁寧な見直しが可能である。 ・特別支援コーディネーターの立場で、通常学級に在籍する支援が必要な児童に対して、特別支援員を効果的な活用をお願い。 ・授業のユニバーサルデザイン化による通常学級在籍児童全体の学習効果は大きいので、具体的な取組の推進をお願い。 	<p style="text-align: center;">人権教育について(担当:石岡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度まで人とのかかわりを重視することに着眼点をおいた取組 「誕生日紹介」と「ぼかぼか言葉」→今年度も継続 ・昨年度より「授業のユニバーサルデザイン化」の推進 ・児童チェックシートの活用(1年生からの記録を継続保存) ・男女共生教育(男女混合背の順・徒競走等) ・人権参観・懇談会や学年通信による保護者への啓発 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大事にしながら教育に取り組むのは大事なこと。 ・内容が特別支援教育に特化されている。各項目をまんべんなく散らばめた、6年間を通した指導計画はあるか。 ・児童へアンケートを行う場合、どんな場面で頑張っていると感じたのかなど具体的な項目も書けるようにすると、指導の際にポイントを明確化できる。 ・ケース会議の手順を示してあるが、原因が複雑に絡んでいる場合も多い。児童理解を深めてきめ細やかな対応をお願い。
<p style="text-align: center;">授業懇談 千代先生 教科 国語 (担当:城野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3文字」のこぼれ集め。一字ずつ手をたたきながら読むことで、単語の音韻を意識させていた。 ・ノートに小黒板に書かれたものを視写。少人数指導教員と2人で机間巡視。ひとり一人の進捗を確認。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学1年生へのひらがな指導は大切。1～4のどの部屋を通して書くか(マス目)正しく板書を。 ・子どもの発表したことばから、指導者の意図する答えにつなげていく工夫が必要。 ・見本の掲示の工夫を。 ・黒板に1時間の指導があとが残るような板書を。 ・既習内容の確認を。 ・授業の始まりにあいさつはあったが、終わりにはなかった。活動の切り替えとして、あいさつは必要である。 	<p style="text-align: center;">授業懇談 二神先生 教科 算数 (担当:石岡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「長さ」の導入。手を広げた長さを比べる。 ・スズランテープを用意し、児童3名の手を広げて長さを測りとり黒板に掲示。 ・教科書の亀の歩いた長さを紙テープに測りとり、ノートに貼る。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイムの学校できちんと始業のあいさつを入れているのは大事なこと。 ・先生に表情としゃべり方が柔らかくて2年生にはとてもいい。 ・子どもたちものびやかに授業に取り組んでいた。 ・先生に少し緊張が見られた。もう少し机間巡視や児童に目を向ける余裕があればいい。 ・正確に紙テープの長さを切り取るのは2年生には少し難しかったか。うまく次時につながるか。 ・ICTを活用できる場面もあった。 ・ぜひ量感も身に付けさせてほしい。
<p style="text-align: center;">生徒指導について(担当:城野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より「サイレント清掃」を取り入れ、今年度も継続。 ・給食指導では、静かに食べる時間を設定(給食時間中、静かな音楽が流れる) ・5分前行動など、児童が「児童の約束」を守り、学校生活を。 ・月に1度、目視、打音による安全点検を実施。 ・登校安全のため、毎朝教師3名+校長による立哨指導を実施。 ・夏休みに着任教員と緑ヶ丘中学まで歩き、危険箇所の周知を。 ・1、4年生で被害防止教室を実施。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の立哨、児童の安全確保のためにも今後も継続を。 ・防災コンテナの設置校でもあり、今後も教職員への防災意識の啓蒙を。 	<p style="text-align: center;">児童生徒たちのようす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間中、児童一人ひとりが、すすんで清掃活動を行っていた。 ・読書活動の時間に、一人ひとりが落ち着いた雰囲気の中で活動していた。 ・休み時間は外に出て遊んでいる子も多い。 ・図書室も賑わっている。 ・児童自ら進んで挨拶をするような感じではなかったか。 ・支援が必要かと思われる児童が比較的多く感じた。 ・授業中の雰囲気はクラスによってまちまちだが、飛び出したり妨害をしたりするような児童は見なかった。

真弓小学校 学校経営評価シート

6月2日(木)

項目	診断の観点	診断の規準	動機 ○×	備考	フォロー ○×	
学 校 經 営	教育目標・経営方針	県や市町村教育委員会の指導方針を踏まえた教育目標の設定	学習指導要領、「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標等を設定している。	○		
		学校の特色や前年度の課題を踏まえた経営方針・重点目標の設定	目指す学校像・児童像・教師像を具体的な姿で示している。 学校の特色や前年度の課題を踏まえて重点目標等を設定している。	○		
		経営方針や重点目標の共有と発信	学校運営や教育活動を構造化・体系化してグラウンドデザイン等に示している。 学校経営方針や重点目標等を教職員が共有している。	○		
		重点目標等の達成に向けた取組	重点目標等を、学校だよりやホームページなどで児童・保護者・地域住民等に発信している。	○		
	校務 分掌 運営	学年や分掌間等の連携・協力体制	学校の課題や今日的な教育課題に対応するための組織をつくり、具体的に取り組んでいる。 企画委員会や推進委員会等、連絡調整を図るための会議を定期的に行っている。	○		
		学校評価	学校評価の組織的な推進	学校評価委員会等を設置し開催している。 学校全体で組織的に学校評価を推進している。	○	
	学校評価の計画的な推進		学校評価の推進計画を作成し、計画的に推進している。	○		
	学校評価の目標設定		本年度の重点目標等の達成に向けた具体的な目標や方策を評価項目として設定している。	○		
	学校評価の活用と成果		学校評価をツールとして活用し、学校改善が進んでいる。	○		
	アンケートの活用		児童や保護者等を対象としたアンケート（授業評価を含む）を自己評価に適切に活用している。	○		
	学校関係者評価の実施		保護者等を含めた学校関係者評価委員会等を設置し開催している。 自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施している。	○		
	学校評価の公表		保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。 保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。	○	HPIにはあがっていない HPIにはあがっていない	
	地域連携	地域連携	地域連携を推進するための組織を設けている。	○		
			学校、保護者、地域住民が当事者意識をもって熟議する場を設けている。	○		
学校、保護者、地域住民が参画・協働して児童を育てる取組がある。			○			
保護者や地域住民等に対して、「地域と共にある学校づくり」等の取組を情報発信している。			○			
教 育 活 動	学習指導	各教科等の年間指導計画の作成と活用	学習指導要領に基づき、教育目標等を踏まえながら、各教科等の年間指導計画を作成し、活用している。	○		
		基礎的・基本的な内容の定着に向けた取組	基礎的・基本的な知識や技能の習得とその活用を図る取組を計画的に行っている。 指導方法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。	○		
		自ら学び、自ら考える力を培う指導の工夫	問題解決を図る活動を取り入れた授業を行っている。	○		
	生徒指導	児童の学習状況の把握と適切な評価	各教科等の評価規準を作成している。 授業における児童の学習状況を把握し、適切に評価している。	○		
		重点課題の明確化及び教職員による指導体制	児童の実態を踏まえて重点課題を明確にし、継続的な取組を行っている。 配慮を要する児童に対して、教職員が連携して指導する体制を整えている。	○		
		教育相談の体制	指導や支援のできる教育相談体制を整えている。 家庭や地域、関係機関等との緊密な連携を図っている。	○		
	人権教育	県の「人権教育の推進についての基本方針」等を踏まえた人権教育の推進	児童や地域の実態を踏まえ、県の「人権教育推進プラン」に基づいて人権教育推進計画を立てている。 児童・保護者に人権意識を高める多様な取組を計画・実施している。	○		
		特別支援教育	特別支援教育を推進するための組織が整っている。 特別支援教育推進計画を立てている。	○		
	研究・研修	指導力向上や授業改善を図るための研究・研修体制	研究主題及び研究内容・方法を明確に示している。 全学年で、研究授業・研究協議等を計画・実施している。	○		
		資質向上のための研修の実施	今日的な教育課題や学校の課題に即した様々な研修を計画・実施している。	○		
当面する 県の教育課題		規範意識の高揚	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○		
	「学校のきまりを守る」等について、具体的な取組を計画・実施している。		○			
	いじめに関して実態を把握するとともに、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。		○			
	規範意識の高揚に向けて、家庭と連携して取組を進めている。	○				
	体力の向上	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○			
体力の向上を図る取組		体育科の授業で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。 体育科の授業以外で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。	○			
学習意欲の向上	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○				
	学習意欲の向上を図る取組	日々の学習指導の中で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。 家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組を計画・実施している。	○			

学校評価について(担当:城野)	学習指導・研究研修について(担当:前田)
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の学校評価を今年度の教育目標や重点課題、経営方針に生かし切れていない。 ・年度末のアンケートの問題を昨年度は少し手直した。 ・今年度の学校経営では、従前どおりではなく少し手直して進めたい。また、それについて、きちんと評価し、次年度につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の研修を始めてから3年目。 ・若い先生が増えて、教科の研究をした方がいいということで算数の研究が始まった。 ・今年は、低中高で1本ずつ研究授業を行う。 ・市人教が当たっているので、算数の研究授業をしない学年は、人権教育の研究を行う。
特別支援教育について(担当:城野)	人権教育について(担当:前田)
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童の個別に支援計画は、1学期の懇談で保護者からの話を聞き、夏休み中に作成する予定である。 ・通常学級に在籍する支援の必要な児童については、チェックシートを活用し、実態把握に努め、児童の得意とする部分を生かした指導を進め、自己肯定感を培いたい。 ・特別支援学級の児童の保護者には、土曜参観で特別支援学級と交流学級両方の様子を見てもらっている。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な児童に、全教職員で対応していただき、ありがたい。 ・児童の実態把握を進め、一人ひとりに合った支援を展開してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にしたがい、ひとつひとついねいに説明いただいた。 ・コミュニケーションの育成では、たてわり班を作り、一年間に渡って計画を立て活動している。 ・0号級のライトドッジボールを配ったところ、児童が外で積極的に出て遊ぶようになった。 ・ほぼ毎月参観懇談を行い、家庭との連携を取っている。
授業懇談 氏本先生 教科 算数 (担当:城野)	授業懇談:上原あずみ先生 教科:算数(担当:前田)
<ul style="list-style-type: none"> ・整数×小数の計算の仕方を考える。 ・各児で考えた計算の仕方を班で意見交流し、班の意見として一つにまとめ、発表する。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導したり、板書したりするときに使う言葉は、指導書や教科書にある言葉を使うようにしてほしい。 ・発表については、児童の発表の仕方について、決まった形のものを用意しておく、児童の発表がスムーズになる。 ・児童が発表で使う掲示物の、提示方法を改善し、席が後ろの児童にも見えるように。 ・児童の聴く姿勢が整ってから指示は出すように。 	<p>(評価した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落し物をした児童に対してすぐにまわりの児童が対応していた。 ・「はい」と声を上げて元気に手を挙げていた。 ・いい姿勢やいい発言をした児童をほめ、児童が自分もほめてほしいという気持ちが出ており、担任がクラスの主導権をしっかり握っていた。 ・「はい」や「〇〇です」と発表の仕方の習慣がついている。 <p>(指導した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を挙げるときは大きな声だが、発表するときには声が小さい。 ・最初にあげためあてが単元の目当てになっており、本時の目標が明確でなかった。 ・最後に振り返って自己評価させる場面がなかった。 <p>低学年の児童に電子黒板の必要性を強く感じた。(実物を見ないとイメージできない児童が多い)</p>
生徒指導について(担当:城野)	児童生徒たちのようす
<ul style="list-style-type: none"> ・個人カードを作成し7年目に。 ・「清掃・挨拶・安全歩行」の指導に重点を置いている。 ・毎月2つの生活目標を設定し、生活指導に取り組んでいる。 ・トラブルが発生した時は、学年、生徒指導主任、管理職、(養護教諭)で対応。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全面で配慮の必要な児童もあり、安全歩行に重点をおいた指導の継続を。 ・挨拶ができることは基本であり、今後も取組の継続を。 	

緑ヶ丘中学校 学校経営評価シート

6月21日（火）

項目	診断の観点	診断の規準	助開 ○×	備考	フォロー ○×	
学 校 経 営	教育目標・経営方針	県や市町村教育委員会の指導方針を踏まえた教育目標の設定	学習指導要領、「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標等を設定している。	○		
		学校の特色や前年度の課題を踏まえた経営方針・重点目標の設定	目指す学校像・児童像・教師像を具体的な姿で示している。 学校の特色や前年度の課題を踏まえて重点目標等を設定している。			
		経営方針や重点目標の共有と発信	学校運営や教育活動を構造化・体系化してグランドデザイン等に示している。 学校経営方針や重点目標等を教職員が共有している。	○		
		重点目標等の達成に向けた取組	重点目標等を、学校だよりやホームページなどで児童・保護者・地域住民等に発信している。	○		
	校務 組織 分掌 運営	学年や分掌間等の連携・協力体制	学校の課題や今日的な教育課題に対応するための組織をつくり、具体的に取り組んでいる。 企画委員会や推進委員会等、連絡調整を図るための会議を定期的に行っている。	○		
		学校評価の組織的な推進	学校評価委員会等を設置し開催している。 学校全体で組織的に学校評価を推進している。			
	学校 評価	学校評価の計画的な推進	学校評価の推進計画を作成し、計画的に推進している。	○		
		学校評価の目標設定	本年度の重点目標等の達成に向けた具体的な目標や方策を評価項目として設定している。			
		学校評価の活用と成果	学校評価をツールとして活用し、学校改善が進んでいる。			
		アンケートの活用	児童や保護者等を対象としたアンケート（授業評価を含む）を自己評価に適切に活用している。			
		学校関係者評価の実施	保護者等を含めた学校関係者評価委員会等を設置し開催している。 自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施している。	○		
		学校評価の公表	保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。	○		
			保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。	○		
	地域 連携	地域連携	地域連携を推進するための組織を設けている。	○		
学校、保護者、地域住民が当事者意識をもって熟議する場を設けている。						
学校、保護者、地域住民が参画・協働して児童を育てる取組がある。						
保護者や地域住民等に対して、「地域と共にある学校づくり」等の取組を情報発信している。						
教 育 活 動	学習 指導	各教科等の年間指導計画の作成と活用	学習指導要領に基づき、教育目標等を踏まえながら、各教科等の年間指導計画を作成し、活用している。	○		
		基礎的・基本的な内容の定着に向けた取組	基礎的・基本的な知識や技能の習得とその活用を図る取組を計画的に行っている。 指導方法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。	○		
		自ら学び、自ら考える力を培う指導の工夫	問題解決を図る活動を取り入れた授業を行っている。			
	生徒 指導	児童の学習状況の把握と適切な評価	各教科等の評価規準を作成している。 授業における児童の学習状況を把握し、適切に評価している。	○		
		重点課題の明確化及び教職員による指導体制	児童の実態を踏まえて重点課題を明確にし、継続的な取組を行っている。 配慮を要する児童に対して、教職員が連携して指導する体制を整えている。	○		
	人権 教育 支 援	教育相談の体制	指導や支援のできる教育相談体制を整えている。 家庭や地域、関係機関等との緊密な連携を図っている。	○		
		県の「人権教育の推進についての基本方針」等を踏まえた人権教育の推進	児童や地域の実態を踏まえ、県の「人権教育推進プラン」に基づいて人権教育推進計画を立てている。 児童・保護者に人権意識を高める多様な取組を計画・実施している。			
		特別支援教育の推進体制	特別支援教育を推進するための組織が整っている。 特別支援教育推進計画を立てている。	○		
	研究・ 研修	指導力向上や授業改善を図るための研究・研修体制	研究主題及び研究内容・方法を明確に示している。 全学年で、研究授業・研究協議等を計画・実施している。			
		資質向上のための研修の実施	今日的な教育課題や学校の課題に即した様々な研修を計画・実施している。	○		
当 面 す る 県 の 教 育 課 題	規範 意識 の 高 揚	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○			
		「学校のきまりを守る」等について、具体的な取組を計画・実施している。 いじめに関して実態を把握するとともに、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。	○			
		規範意識の高揚に向けて、家庭と連携して取組を進めている。				
	体力 の 向 上	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。 体育科の授業で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。 体育科の授業以外で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。				
		学習 意欲 の 向 上	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。 日々の学習指導の中で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。 家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組を計画・実施している。			

学校評価について(担当:城野)	学習指導・研究研修について(担当:前田)
<ul style="list-style-type: none"> 学校要覧の記述内容とランドデザインの内容がリンクできていない。このことについて、来年度には改善したものを出していきたい。 保護者アンケートはあえて「あてはまる」「ややあてはまる」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の4つにしている。自由記述という方法について、今後検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を使った授業をぜひ行っていきたい。 生徒指導や道徳などは全体で研修していくことができていますが、教科になると各教科ごとの連携になり、全体の研修はやりにくい。 理科の教師はまとまって、研修をおこなっている。
特別支援教育について(担当:城野)	人権教育について(担当:前田)
<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級在籍生徒に「肥満」の課題があると考え、「自立活動」の中に「作って食べること」を取り入れ、生きる力をつけさせている。 調理実習で、どんな食材が必要か考え、生徒自ら買い出しに出かけ、多くの体験を積ませるようにしている。 通常学級に在籍する支援の必要な生徒の配慮受験のために、個別支援計画を作成している。また、自己肯定感も大切にしている。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「障害者差別解消法」を視野に入れ、教職員が一つのチームとして、「合理的配慮」を行える体制づくりを。 二次障害の兆候を早期に発見できるようにお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級の生徒への理解が弱いので、2年生の生徒に3年生の特別支援学級の保護者に来ていただいて話をしてもらった。 外国籍の生徒が増えてきており、その対応にも取り組んでいる。国際理解を進める取組も必要になってくる。(イギリス、アメリカ、バングラディッシュ、ロシアなど) なかまづくりとして、なかま意識はあるが、少しうすい感じがする。遊び感覚で、なかまはずれをつくることもあり、なかまへの意識付けを強くしていきたい。
授業懇談 河原先生 教科 数学(担当:城野)	授業懇談 小川先生 教科 英語(担当:前田)
<ul style="list-style-type: none"> 割合の単元では、できる生徒とできない生徒に分かれてしまう。より多くの生徒に理解してもらうように復習を導入部分で行った。 机間巡視を多く取り入れ、1人でも多くの生徒に個別の指導を行おうと考えている。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 教え込もうという部分が多い。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れられる場面があった。 生徒のプリントの図を掲示物として準備しておくことで生徒の理解が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクタ、パソコン、デジタル教科書、パワーポイントなどのICT教育機器をうまく工夫して、生徒があきることのない授業展開が行われていた。 教材作りはかなり時間がかかっていることがわかる教材だったので、教師の負担を軽くすることができるよう、ICT機器を取り入れていかなければならない。 あまり挙手をさせる場面がなく、指名制で生徒に発言させていたが、比較のおとなしいクラスで、生徒の意見を引き出すのが難しいクラスであるらしい。 授業の目当てが提示されたが、すぐ消されたので、めあては1時間残しておくほうがよいことを指導した。 振り返りについても行う時間をとっていたが、生徒の習熟度が分かるような振り返りができないか考えてもらうようにした。
生徒指導について(担当:城野)	児童生徒たちのようす
<ul style="list-style-type: none"> 「明るい挨拶」「正しい服装」「けじめある生活」の3つの柱で、生徒の規範意識を高めることで、数年前から生徒たちは落ち着いてきた。 生徒会、生活委員が校門に立ち、朝のあいさつ運動を行っている。 ネット、スマホの出勤授業の実施。年2回の相談タイムの実施。 毎週火曜日に生徒指導部会を持ち、情報交換、指導方法の共有を確認している。 <p>〈助言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のちょっとした変化に敏感に対応していただき、早期対応をお願いしたい。 挨拶ができることは、社会では大事な要因であるので、あいさつ指導の充実を。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に落ち着いた雰囲気であった。数名服装が乱れた生徒や上靴の踵を踏んで歩いている生徒を見かけた。 落ちついていて、むしろおとなしい印象。授業にも落ち着いて取組、学習態度が前向きであった。